



深谷公園

いきものガイド



ネムノキ



アオスジアゲハ



カワセミ

鈴鹿市

FUKADANI-PARK
深谷公園MAP
観察マップ



トノサマガエル



フジ



ガマ



① 水辺



② スギ林



③ コナラ林

準備を整えて 深谷公園へ観察に出かけよう!



観察の心得

自然観察で大切なことは、自然のしくみを学び、自然と私たちとのつながりを考えること。

時間をかけて、植物や虫、鳥などを観察すると、今まで気づかなかったことがいろいろ見つかるはず。

1. 五感を使って観察しよう

目で見るだけでなく、においをかぐ、やわらかいか・かたいかをさわってみるなど、鼻や手など五感をはたらかせて観察しよう。

2. 記録をとろう

観察したことは、その場でできる限り詳しくありのままを記録しよう。



3. 観察したことをまとめよう

観察が終わったら記録を整理し、共通点を見つけたり比較したり、さらに詳しく本で調べたりして観察からどんなことが分かったかまとめてみよう。

かまれたり・さされると危険!!



オオスズメバチ

日本産のハチでは最大で、毒をもち刺されると死ぬこともある。すばやく動くものに反応するので見つけたら静かにゆっくりと後ずさりして逃げよう。



マムシ

太くて短い毒ヘビで銭型(ぜにがた)はん点がある。見つけたら相手にならずその場をはなれよう。



ドクガの幼虫

コナラやイタドリなどのさまざまな植物の葉につく。幼虫に触れたら決してこすらず、水で洗い流そう。

かぶれ注意!!



ヤマハゼ



ヤマウルシ



この看板があれば
要注意!!



ヌルデ

とげ注意!!



タラノキ



ノイバラ

春



コナラ林では、林床にかれんな花が咲き出し、木々が芽吹きはじめる。コナラの新緑はとても淡い銀色で、若い葉を強い光から守るため、表面に細かい毛が生えている。



コナラの雄花(左)と雌花(右)

春の訪れを告げる花



ハンノキ



オオバヤシャブシ



アセビ



ヒサカキ

暖かな日差しが差し込む早春の林床に見られる花



シュンラン



タチツボスミレ



ショウジョウバカマ



イワカガミ

新緑が濃くなる頃に咲く花



チゴユリ



イチヤクソウ



ツルアリドオン



ヤマツツジ



コバノガマズミ



ネジキ



コアジサイ



クリ

チョウが花を訪れ、鳥たちがさえずり始める。



オジロアシナガゾウムシ



サビキコリ



キンイロジョウカイ



ジョウカイボン



ツマキチョウ



ベニシジミ



ツバメシジミ



キアゲハ



ナナホシテントウ



クロウリハムシ



イタドリハムシ



コアオハナムグリ



クマバチ



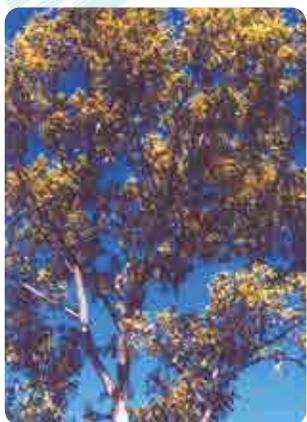
ヒロウドツリアブ



メジロ



ヒヨドリ



新緑がやがて深緑に変わり、コナラ林の中は、急に暗くなる。



コナラの小さな donguri が日に日に大きくなる。

リョウブが白い花をつけ、クサギ、アカメガシワなどの花が夏の虫たちを誘う。



リョウブ



クサギ



アカメガシワ



ノリウツギ

林縁では、つる植物が勢いよく伸びる。



センニンソウ



ヘクソカズラ



ヤブガラシ



クズ

うす暗い木陰やしめった場所・日の当たる乾いた場所などさまざまなところにシダ植物は生育している。



コモチシダ



ベニシダ



リョウメンシダ



ウラジロ



コシダ

夏に見られる虫たち



コクワガタ



カナブン



ミズイロオナガシジミ



アカシジミ



ショウリョウバッタ



ベニカミキリ



ニイニイゼミ



アブラゼミ



ホシハラヒロヘリカメムシ



ミイデラゴムシ

森のレストラン



コナラやクヌギから出る樹液を吸いに、カブトムシ、カナブン、スズメバチ、ガなどが集まってくる。

トンボが次々と羽化をはじめ。



オオシオカラトンボ



アキアカネ



ナツアカネ



オオアイトトンボ

秋



コナラのドングリや草の実が色づき始め、林床にはキノコが出てくる。そして、コナラ林の秋は紅葉でクライマックスを迎える。



コナラのドングリ

秋になると、まず、木の実が色づき始める。



ムラサキシキブ



ソヨゴ



ネズミモチ



フユイチゴ

ドングリはブナ科の硬い実の総称で種類によって形、姿や下についている殻斗(お皿)もちがう



シラカシ



クヌギ



マテバシイ



ナラタケ



スタジイ



アラカシ



クリ



ムラサキシメジ

秋に見えるキノコたち

深まりゆく秋に咲く花



コウヤボウキ



ヒヨドリバナ



ヤマハギ



ノコンギク

紅葉の最盛期は、11月下旬から12月上旬



アカメガシワ



ヌルデ



ネジキ



コアジサイ

秋に見られる虫たち



エンマコオロギ



ヤブキリ



クロコノマチョウ



ヒメアカタテハ

色違い! マダラバッタを3色見つけてみよう!!



褐色



緑色



紅色



すっかり葉を落としたコナラの枝を見あげると、葉があった時よりも堂々に見える。枝の先には小さな冬芽がついており、春に伸びだす力を蓄え、じっと寒さや乾燥に耐えている。冬のコナラ林は色々な木の樹皮を観察するのも良い。



コナラの冬芽(左)と樹皮(右)

秋に落ちたドングリは冬のうちに発根して春を待つ。

樹木はそれぞれ特徴的な冬芽や樹皮をもっている。



リョウブ

ヤマザクラ

トチノキ

アカメガシワ

冬芽の下には、人や動物の顔に似た面白いあとが見られる。葉がついていたあとで「葉こん」という。



クズ

トチノキ

ヌルデ

アジサイ

冬に見られる鳥たち



ツグミ



ジョウビタキ



カワラヒワ



モズ



イカル



コゲラ



エナガ



シジュウカラ

カマキリやクモの卵のう



ハラビロカマキリの卵のう



オオカマキリの卵のう



ナガコガネグモの卵のう

成虫で越冬するチョウたち



ヒオドシチョウ



テングチョウ



ルリタテハ



キタキチョウ



復活した里山のコナラ林

鈴鹿市では、深谷公園で、かつての明るく多様ないきものすむコナラ林にするため、里山ボランティアの協力のもと、里山保全活動を実施している。この活動により、ササユリやキンランなど、かつて里山にはえていた多くの植物が再び見られるようになってきた。



キンラン

ササユリとは、ユリ科の多年草で、葉がササの葉に似ていることからこの名前が付けられた。1970年頃までは、各地で多数確認されていたが、大規模な開発や里山林の荒廃により生育地が著しく減少し、今では三重県のレッドデータブックで準絶滅危惧種になっている。



発芽したばかりの葉はネギの芽のように細い



4~5年目になると茎が立つ

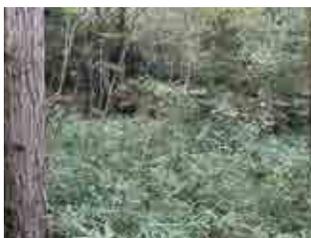


6年目でやっと開花



10年以上で花が3~4輪咲く

里山保全活動



作業前



作業中



作業後

見つけてみよう！珍しい虫たち



タイショウオオキノコ



キノコゴミムシ



ヒメトラハナムグリ



アオマダラタマムシ



トラフムシヒキ



ハチモドキハナアブ



サッポロアシナガムシヒキ



コシアカスカシバ

食虫植物 —トウカイコモウセンゴケ—

湿地に生える多年草。葉は平たく先が丸くなっていて、赤い腺毛が生えている。腺毛の先から粘液が出ており、小さな虫などをつかまえて、消化液で溶かして吸収する。



トウカイコモウセンゴケ

オトシブミのゆりかごを探してみよう！



ヒメクロオトシブミのゆりかご

左の写真は、ヒメクロオトシブミが、コナラなどのやわらかい葉を、丸い筒のように巻いて作ったもので、「オトシブミのゆりかご」と呼ばれている。

このゆりかごの中には、小さな卵が1つ入っていて、卵から出てきた幼虫は、まわりの葉を食べて成長する。

クりにできる 虫こぶ

クリタマバチはクリの新芽に産卵し、ふ化した幼虫は芽のなかで越冬する。このため新芽は赤褐色に肥大し、内部に数個の虫室がある。



クリメコブズイフシ

ひつつきむしで 遊ぼう

服につく草の実を親しみを
持って「ひつつきむし」な
どと呼ぶ。



アレチヌスビトハギ



コセンダングサ

ドングリを 食べる虫

ハイイロチョッキリやシ
ギゾウムシの仲間はドング
リに卵を産む。卵からかえ
た幼虫は種子を食べて成長
し、ドングリの内側から大き
な穴を開けて外に出る。



クヌギのドングリから
でるクヌギシギゾウムシ
の幼虫



ハイイロチョッキリは
卵を産みつけた若い
ドングリがついている
枝を切り落とす

編集・発行：鈴鹿市環境部環境政策課

〒513-8701 鈴鹿市神戸一丁目18番18号

TEL:059-382-7954 FAX:059-382-2214

Email:kankyoseisaku@city.suzuka.lg.jp

ガイドブック作成にあたり各分野の講師の方々にご協力いただきました。
(桐生定巳、清田卓也、篠木善重、谷口雅仁、生川展行、藤井英紀、山田広道)



この冊子は、みえ森と緑の県民税を
活用して作製しています。